

# 1 富山県のさかな

「富山県のさかな」は、ブリ、ホタルイカ、シロエビの3種である。1996年10月に選定され、12月にはシンボルマークも決まった。枕詞(まくらことば)を添えると、「富山湾の王者 ブリ」、「富山湾の神秘 ホタルイカ」、「富山湾の宝石 シラエビ」となる。

3種をあしらったシンボルマークがおもしろい。ブリの黄色い縦縞(しま)は初冬に轟(とどろく)鯡(ぶり)起こし(雷)となり、青く聳(そびえる)立山を背後に閃光(せんこう)する。ホタルイカの腕は雪解け水を富山湾に運ぶ川となり、新緑の立山を遠くに眺める。シロエビの髭(ひげ)は「あゆの風(あいの風)」となり、夕陽に赤く染まった夏の立山に涼風を送っている。この3景が連峰の形でまとめられている。

選考は、有識者、水産業界、消費者、観光業界などの代表者15名で組織された「富山県のさかな選定委員会」が行った。アンケート調査の結果を踏まえ、漁場の地域的なバランスや季節性も考慮し、3種が選ばれた。選考のポイントとなったのは、

- 富山県のイメージに合う。
- 歴史的、文化的に県民に馴染みが深く親しまれている。
- 相当の漁獲量がある。
- 知名度が高い(富山県特有のさかなである)。

の4点である。なお、シロエビは、標準和名では「シラエビ」であるが、通称名を使用することになった。

県の魚は、全国27県(1996年9月現在)で指定されている。その県の全国1位の水揚げ魚種、県名がイメージできる魚種、あるいは旬(しゅん)の魚(複数種)などが、豊かな海づくり大会の開催などを機に、水産物消費拡大などのために制定されている。近年、輸入水産物の増加、魚価の低迷などにより、富山県の水産業界は厳しい状態にある。業界のイメージアップと水産物の消費拡大につながることを期待される。(高松)